令和２年度　学校経営計画

足立区立千寿桜堤中学校

校長　勝　田　敏　行

１　学校教育目標

○　自ら考え、自ら学ぶ人　　○　感性あふれる、心豊かな人　　○　心身を鍛え、たくましく生きる人

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○　生徒一人一人の可能性を伸ばせる学校　　○　地域・保護者・生徒から信頼される学校
○児童・生徒像	○　勤勉な生徒　　○　ルールを守り礼儀正しい生徒　　○　他者を思いやる人　　○　夢を育む人
○教師像	○　教職としての専門性を高める教師　　○　自他の人間性を高める教師　　○　組織で教育を実践する教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

＜学校の現状＞

◎学校について　［よさ］創立 15 年目を迎え、新たな 10 年を創造することが日々の活力と充実感の源となっている。
［課題］学校経営方針の具現化に向けた教職員の組織力の向上。

◎生徒について　［よさ］全体的に素直で明るく、授業は真剣に取り組む。部活動は積極的に活動している。
［課題］自分の思いや考えを積極的に伝える力、言葉を通じて表現する力が身についていない生徒が目立つ。

◎教師について　［よさ］教員一人一人が個々の可能性を伸ばす研鑽に努め、自らの研修課題に積極的に取り組んでいる。
［課題］教職員全体の資質向上、教員力の育成を図る組織的な「OJT、Off-JT」の充実を図る。

◎保護者・地域について　［よさ］生徒の教育に関心があり熱心である。
［課題］ＰＴＡのサポータ制度を活性化させ、広範な通学地域である保護者をまとめ具体的な活動の充実を図る。

＜前年度の成果と課題＞

成果・生徒は全体的に落ち着いた生活習慣と学習に向けた取り組みができた。
・オリンピック・パラリンピック教育の推進することで東京 2020 大会への機運醸成を図ることができた。
・足立区災害対策課の方、千住ブロック地域福祉研究委員会の方連携し、水害を中学生と考える」と題して全校生徒や地域の方、保護者に向けて講演会を実施したことで生徒や保護者、地域の方にも防災（水害対策）意識を高めることができた。

課題・様々なテストに対応できる力を育成していく。
・東京 2020 大会開催が生徒たちの心のレガシーなるように大会終了後も持続可能な教育の在り方を模索していく。
・中学校生活を充実させるためにも部活動の新たな活動として生徒主体の活動を模索していく。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　H:平成　R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプランの実践を通した、自ら考え、意欲的に学習に取り組む生徒の育成	○	○	○	○	○
2	オリンピック・パラリンピック教育の学校全体での組織的･計画的な推進	○	○	○	○	
3	学校・家庭・地域による協働の推進から透明性及び信頼度の高い学校への構築	○	○	○	○	

５　令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプランの実践を通した、自ら考え、意欲的に学習に取り組む生徒の育成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）
・学力向上アクションプランの実践を通して、各種学力調査等に対応できる確かな学力を定着させる。	区学力調査通過率各学年・各教科７１％以上 平均正答率・（７３％以上） 年度末に検証のための調査を実施 平均正答率・各教科率７３％以上

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）
1 新規	授業改善	全学年 全教科	年間を通した 授業観察 研究授業・研究協議	【指導体制】管理職等、教員 【取り組み内容、目的】指導者は学習指導案（略案）の作成、管理職等は授業への指導・助言 教員相互の意見交換 授業力を向上させ、生徒の学力向上を図ることが目的 【使用教材】指導案・教科書	学校評価（生徒・保護者・学校関係者） 教員による自己評価	学校評価の「授業がよくわかる」の項目で 90%以上が肯定的に答える 教員による自己評価で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の項目で 90%以上が肯定的に答える
2 継続	放課後補充教室	全学年 国語・数学 英語・社会 理科コンテスト 正答率 80%未満	年間 10 回以上のコンテスト実施後各一週間	【指導体制】 教科担任＋副担任 【取り組み内容、ねらい・目的】 基礎的な学習内容の復習確認を行い、学力向上を図る。 【使用教材】 各教科のコンテストプリント	各教科のコンテストの再テストを実施	各教科コンテストで全員が正答率 80%以上の結果を出す
3 改善	放課後質問教室	全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・社会 ・理科 希望者	年間 4 回の定期考査実施前の１or２週間	【指導体制】 教科担任＋担任 【取り組み内容、ねらい・目的】 学習内容の再確認と疑問点の改善 【使用教材】 各教科の教科書・ワーク	年間 4 回の定期考査	定期考査で全員の正答率を 10%以上上昇

3 継続	サマースクール	全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・社会 ・理科 正答率50%未満＋希望者	夏季休業中の 7日間 各日50分×３	【指導体制】 教科担任＋学年教員 【取り組み内容、ねらい・目的】 当該年度の前半期の内容でつまずきを解消する。理解が完全でない内容の補充問題やサマーワークを行う。【使用教材】 各教科のプリント教材 ・サマーワーク	夏休み終了後、確認テストの実施	夏休み終了後の確認テストで各教科の正答率50%未満の生徒を20%以上減少させる
4 継続	イングリッシュフライデー	全学年　英語	毎週金曜日 昼時間	【指導体制】 教科担任＋担任 【取り組み内容、ねらい・目的】 昼の放送すべてを英語で流し、リスニング能力の向上を図り英語に親しませる。 【使用教材】 必要に応じて英語の教科書	英語の授業で行うミニテスト	通常の連絡事項を全員が英語で聞き取れるようにする。
5 新規	Welcome to Japane	全学年　英語	各行事前後２週間程度の事前事後	【指導体制】 教科担任＋学年教員 【取り組み内容、ねらい・目的】 外国人と会話を交わすことで英会話効力の向上。 【使用教材】 英語の教科書・海外映像	校外学習・ＴＧＧ・修学旅行後の事後学習と英会話での事後発表	国際理解教育の一環として英語でコミュニケーションをとれるようにする。

6 新規	ICT 教育	全学年全教科	教科授業・総合的学習の時間など随時　必要に応じて	【指導体制】 教科担任＋学年教員 【取り組み内容、ねらい・目的】 ①学力育成、わかりやすい授業のための視覚、聴覚に訴えかける学びの実現 ②情報活用能力や想像力の育成 ③双方型の授業やアクティブラーニングへの活用 【使用教具】 タブレット、デジタル教科書、モニター、スクリーンなど	足立区教育委員会が行う、ICT 教育に関するアンケートなどにて使用状況を確認する	・教員 学期に１回以上、デジタル教科書や動画、写真を提示する授業を実施する ・生徒 生徒が学期に１回以上、自分たちがタブレットに触れて、調べ学習や探究活動、または双方向型の授業を展開する。

重点的な取組事項－２	オリンピック・パラリンピック教育の学校全体での組織的･計画的な推進 （各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間･特別活動・部活動）

Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**
・オリンピック・パラリンピック教育をカリキュラムマネジメントの中心に据え、生徒と共にオリンピック・パラリンピックの意義を知り継続的に意識啓発を図り、東京 2020 大会への機運を高める。	・全校生徒のオリンピック・パラリンピック大会への興味・関心度 80%を目指す。

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	**達成基準**	**具体的な方策**
・多様なスポーツへの興味関心の向上と、心身ともに健全な生徒の育成を図る。（スポーツ志向）	・都体力統一テストの数値を令和元年度の値から、向上させる。 ・全国の平均値を全学年男女とも上回る。 ・様々なスポーツ選手による講演会の実施＝１回	・都や全国の生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査報告書を分析させ、主体的に体力向上の方策を探し実践させる。 ・体力向上に興味関心をもたせ主体的に運動に取組む習慣をつけさせる。 ・スポーツ選手を講師として招聘し、講演会や体験教室を実施する。
・「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の育成 「グローバル化に対応したコミュニケーション力」の育成	・海外ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ経験者による 講 演 会 ＝1 回以上 出前講座 ＝1 回以上 ・外国人留学生と英語交流など＝3 日以上	・国際貢献活動経験者の方を招聘し国際理解教育の実施 ・JICA ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ経験者による「出前講座」による国際理解教育の実施 ・外国人留学生との交流を計画し実施

・「ボランティアマインドの醸成」 ・「障害者理解」	・ボランティア活動参加延べ人数 ＝80％以上 ・パラリンピアンまたは 技師装具士による講演会　＝年１回	・地域行事、ごみゼロ運動への参加 ・指導案作成と研究授業の実施 ・パラリンピアンや技師装具士の方を講師として招聘し、講演会の実施や体験教室を実施する。

重点的な取組事項－３	学校・家庭・地域による協働の推進から透明性及び信頼度の高い学校への構築

Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**
保護者・地域との積極的な関わりから透明性・信頼性を高める。	学校への満足度 85％を目指す。

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	**達成基準**	**具体的な方策**
・開かれた学校づくり協議会による授業評価・学校評価・家庭教育部会	全 体 会＝年 3 回 授業評価＝年 7 回 学校評価＝年１回 学校公開＝年 10 回 （１回＝一週間） 面接指導 ＝年１回（４日間）	・行事参観や授業診断を学校関係者評価につなげる。 ・8 月、3 月の除く毎月学校公開週間を設定し、授業公開及び授業診断を実施 ・進路に向けた面接指導及び講話
・保護者会への積極的な働きかけ	・保護者会　＝年 3 回(60%) ・行事及び説明会　＝5 回(70%) ・アンケート実施　＝年１回	・会合の内容（生活習慣に対する講演会等）を企画したり、目的の明確化を図ったりする。 ・積極的な保護者の出席を図り学校を見て、知って透明性を高める。
・学校だよりやホームページによる広報活動の充実	・学校だよりを毎月１回の発行定期的なＨＰの更新	・ＨＰや学校だより等の広報活動を積極的に行い、生徒の学校生活に関する理解を深め学校に対する関心を高める。 ・緊急時の情報配信システムの構築
・危機管理への取組 ・災害時の対応への取組	・避難所運営会議＝年 5 回 ・総合防災訓練の実施　＝年１回 ・様々な災害を想定し践的な避難訓練の実施＝２回 ・中学生防災隊の演習＝年１回以上 ・災害伝言ダイヤルの日＝10 日	・学校・家庭・地域が連携した災害時の協力関係の構築 ・区・地域・学校との合同訓練 ・避難確保計画の作成と避難訓練の実施 ・大規模水害を想定した避難訓練の実施 ・弾道ﾐｻｲﾙを想定した避難訓練の実施 ・毎月 15 日を災害伝言ダイヤルの日とし、保護者と学校での演習を実践する。